

ワケ カタチには理由がある(52)

Shape follows Function
& Taste

~SNCASO SO.8000 ナルヴァル(Narval)



本機は 1949 年に初飛行した戦後のフランスの海軍機です。岡部ださく氏の「世界の駄っ作機」第 3 巻にも取り上げられている、試作機ファンにはとても有名な機体です。第二次世界大戦終結後のフランスはドイツに占領された空白期間を取り戻すように、精力的に多様な機体を試作しました。この機体もその一つで、プッシャー式の二重反転プロペラを有した、独自性に溢れた機体です。エンジンはアーセナル H12 というドイツのユモ 213(Fw190D や Ta152 に使われた)の複製エンジンが使用されており、馬力的には十分でしたが、その気流が水平尾翼に悪さをしたのでしょう、機体の振動が激しく、速度も 560km/h 程度しか出ずに、結局量産化はされませんでした。同じ形態を有する、ポテ 75(フランス)と XP-54(米国)も成功作にはならなかったところを見ると、この形態は技術的に問題があったのかもしれませんが。外観はカッコいいですが、必ずしも「美しいものは性能が良い」とはならないことの事例です。なお、ナルヴァルとはフランス語でクジラ類の「イッカク」のことです。

【模型について】

赤とんぼワークス(Akatombo-works)の 1/72 のレジンキットです。今のところ、筆者の知る限り 1/72 では世界唯一のキットです。脚収納口が開いていないので、これを彫り込みましたが、資料が全くないので想像です。その他、エアインテイクと排気管周りを修正しています。とてもテールヘビーなので、機首に穴を開けて大量の錘を埋め込んでバランスを保っています。



(中川裕幸 2022 年 1 月)